

●MRワクチン 重篤な副作用が増加

はしか、風しんについては、かつてそれぞれの単独ワクチンのみでした。1994年に統計がとられはじめてから2013年3月まで、同じシステムで副反応報告がされています。

図表iii、①の時期の11年半は毎年約100万人が接種していましたが、②③の報告では、はしか、風しん、MRワクチンが2回接種になっていますので、1人あたり倍の接種回数になりました。正確な接種者数もわかりませんので、単純にパーセンテージでいえませんが、2006年にMRワクチンがスタートしてから7年間で、脳炎・脳症の副反応報告が18例。出荷量に対する副反応報告数は変わらないのですが、脳炎・脳症や紫斑病などの重篤な例が多く出ているように思います。

2013年から予防接種の副反応検討部会の報告制度が変わりました。はしかの単独ワクチンだと、33万回分出荷したうち、重篤なケースふくめて、15例の副反応報告があり、MRワクチンは、908万回分出荷されていて、244例の報告があります。

こちらでも単純にパーセンテージでいえませんが、重篤な脳炎・脳症、ADEM（急性散在性脳脊髄炎）、血小板減少性紫斑病が増えているといえます。

ただその原因は、MRワクチンそのものなのか、最近増えている同時接種のせい、またそれまでに受けているワクチンの多さのせい、わかりません。

①1994年10月～2006年3月(11年半)		
	副反応報告数	症例
麻しん	888	脳炎・脳症 5、運動障害 0、その他の神経障害 8
風しん	455	脳炎・脳症 1、運動障害 1、その他の神経障害 8
②MRワクチンがスタートした2006年4月～2013年3月(7年)		
	副反応報告数	症例
麻しん	7	脳炎・脳症 2、運動障害 3、その他の神経障害 1
風しん	7	脳炎・脳症 0、運動障害 0、その他の神経障害 1
MR	526	脳炎・脳症 18、血小板減少性紫斑病 21、運動障害 2、その他の神経障害 8
③副反応報告制度が変わった2013年4月～2016年11月(3年8ヶ月)		
()内は出荷数	副反応(疑い)報告数	症例
麻しん(33万回)	重篤 15、非重篤 0	脳炎・脳症 4
風しん(56万回)	重篤 11、非重篤 6	ADEM 1、血小板減少性紫斑病 1
MR(908万回)	重篤 152、非重篤 92	脳炎・脳症 12、ADEM 7、血小板減少性紫斑病 29

図表 iii はしか(麻しん)、風しん、MR ワクチンの副反応報告数
 (「予防接種後副反応(疑い)報告」より)

(青野典子)

©Aono Noriko 2017